

### ＜展覧会開催のお知らせ＞

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）は、ギャラリーの運営母体、あいおいニッセイ同和損保が所蔵する「椿絵コレクション」の展覧会を毎年開催しております。

椿をテーマとした作品は、日本画、油彩画、版画などの絵画に加え、陶磁器、漆器、銅器などの工芸作品と多様で、古くは安土桃山、江戸時代から明治、大正、昭和の近現代まで幅広い時代を網羅しています。あいおいニッセイ同和損保は、毎年コレクションの中からテーマを定め、作品を選定、カレンダーを制作して多くの皆さまに親しんでいただいております。年末に開催されるこの展示では、カレンダーの原画を中心に作品をご覧いただいています。

今回は、100 歳を超えても初心を忘れず絵を描き続けた「健康長寿」の画家の作品を紹介します。長寿社会と言われる現在、日本人の平均寿命は 80 歳を超えましたが、その中でとりわけ画家の長寿は目立ちます。手と頭を使う創作活動ゆえか、はたまた健康だから創作してしまうのか、芸術の未完成感への抵抗か。

新しい年に向け希望と力を与えてくれる作品の数々をお楽しみください。

■タイトル / あいおいニッセイ同和損保椿絵コレクション展示「百歳万彩」

■会 期 / 2023 年 12 月 2 日（土）～12 月 24 日（日）

■時 間 / 11:00 ～ 19:00（最終日は 17 時まで）

■定 休 日 / 月曜定休

■入 場 料 / 無料

■会 場 / UNPEL GALLERY

東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F

■主 催 / あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

■企 画 / UNPEL GALLERY

### ■展示予定作家と作品



奥村土牛（1889-1990）《椿花》他 5 点

東京京橋に生まれ、梶田半古に入門。兄弟子だった小林古徑の指導を受けた。院展に初入選したのが 38 歳という遅さだが、101 歳まで描き続けた大器晩成、息の長い日本画家。戦後は現代日本を代表する〈醍醐〉や〈鳴門〉など傑作を数多く残した。1962 年に文化勲章を受章。

土牛 84 歳のときの言葉、「私はこれから死ぬまで、初心を忘れず、拙くとも生きた絵が描きたい・・・要はどこまで大きく未完で終わるかである。余命も少ないが、一日を大切に精進していきたい」

奥村土牛 《椿花》1982-83 紙本着色・額

### 小倉遊亀（1895-2000）《椿》他 3 点

滋賀県生まれ、日本美術院（院展）の安田靫彦に師事。女性ではじめて日本美術院同人となり、1976 年に日本芸術院会員、1980 年には 文化勲章を受章。

明るい色彩と理知的で力強い形態をもつ作風で人物画や花鳥画に多くの秀作を残した。遊亀の絵作りは抒情的なデフォルメ(変形)が特長で彼女の手にかかる静物もまるで生きもののよう動き出しそう。

遊亀 99 歳の時の言葉、「今年咲いた花は去年の花とは違う。人間も昨日の自分と今日の自分はちがいます。その時その時、一瞬、一瞬だと思います。とらわれないということが本当にできれば、本当に生きることができます」

### 堀文子（1918-2019）《椿之図》他 3 点

東京生まれ、女子美術専門学校卒。戦後まもなく発足した創造美術以来、新作協会日本画部、創画会に所属。

モダニズムによる造形から、やがて写実を基礎に装飾性を加味した幻想的な作風を築いた。ヒマラヤに咲く花を描くために酸素マスクで登るほど、命には命で向き合った。

画家 96 歳の時の言葉、「私には、<これでいい> というゴールはありません」

展示作品詳細につきましては、下記ギャラリーまでメールにてお問い合わせください。

<ご連絡・お問い合わせ先>

■ ギャラリーオフィス 11:00~19:00 月曜定休（担当 / 井上・内城） E-mail / [tsubaki@un-pel.com](mailto:tsubaki@un-pel.com)

<https://unpel.gallery/> TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781

\* お問い合わせは E-mail にてお願いします